

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor	実務 経験
ベンチャー企業論	共通	1年生・後期	2単位	選択	遠藤 真紀	○
履修の前提条件	前期の「ベンチャービジネス入門」が一定の基礎となるため履修している事が望ましい。また経営学・会計学関連の科目を前期にできるだけ多く履修している事が望ましい。前期同様、社会のあらゆる事象に興味を持ち、自分の理想とする社会、仕事、やり甲斐とは何かを考え、前向きに生きようとする事が前提です。					
授業概要 (Course Outline)						
中小企業診断士として、企業の経営戦略立案や事業計画作成の支援等、経営コンサルタントの経験を持つ教員が担当します。ベンチャーだけでなく、ビジネスや経営は、実際に行ってみないと本当の理解はできませんが、テキストによる基本理論の理解やビデオ等による演習を通じて疑似体験する事は可能です。これまでの実務経験を踏まえ、企業経営が身近に感じられるような講義を行い、ベンチャー企業に関する基本的な知識だけでなく、自身と社会や企業との関わりについて深く知ろうとする積極性を養っていきます。						
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)						
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture					○
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature					○
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening					○
	数量的スキル Mathematics					
	情報リテラシー Information Literacy					○
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking					○
	問題解決力 Problem Solving					○
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy					○
	自己管理能力 Self-management					○
	チームワーク Teamwork					
	リーダーシップ Leadership					
	倫理観 Ethical Sense					○
	市民としての社会的責任 Social Responsibility					○
生涯学習力 Lifelong Learning					○	
到達目標 (Objectives)						
ベンチャー企業の社会的意義や特徴および課題等の基礎的知識を理解し、社会や企業について関心を持つようになる。大会社に執着することなく、またサラリーマン(給料のために働く人)となる事と当然とせず、自ら企業を興すなど、ビジネスマン(自分のやりたい仕事を創造し実践する人)として社会で活躍できるマインドを身につける。また社会に出てから役に立つ経営学について関心を持ち、販売士等各種の資格にも挑むようになること。						
事前学習の内容	ベンチャー企業や創業・起業の体験談およびそれに関連する事例などがWEBや新聞・雑誌等に多く掲載されているため、積極的にアクセスし、自分の挑戦材料として記録し、頭に入れておくことが期待されます。					
事後学習の内容	講義内容を基に、自らの考えと合わせて振り返りを行う。実社会での出来事との関連性を考えたり、地元の起業経験者を訪ねて話を聞いたり、検討材料を入手して社会や企業と自身の関係の理解に努めること。					
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)						
基本的に対話型の講義になります。よってただ単に出席し、講義を聴いているだけでは単位取得できません。講義中に行われる教員からの質問等へ積極的に対応し、自身の意見を発言していくことが求められます。またベンチャー企業や革新的企業の経営や戦略等に関するビデオ聴講による演習を行います。聴講したビデオに基づきディスカッションを行うため、ビデオ内容の聞き取り力、メモ力、聴講した内容や関連情報との考察力を養っていきます。						
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)						
教員への講義内容および企業情報や企業経営等に関する質問および関連資格の取得方法等を含む学生生活全般に関するアドバイス・相談等は研究室で対応します。オフィスアワー以外の不在時には、研究室のメッセージボードやEメール (endo@kiis.ac.jp) 等を活用してください。自主性を重要視するので「来る者拒まず、去る者追わず」のスタンスで対応しますが、「聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥」という格言の通りです。積極的な教員へのコンタクトおよびコミュニケーションが期待されます。						
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について						
希望者には、必要に応じて、販売士(3級~1級)、経営学検定(マネジメント検定:初級、中級、上級)、中小企業診断士等、経営学に関連する資格試験の受験指導を行います。宿題となる課題レポートの提出以外に、資格試験への積極的な取り組みや関連するレポートおよび学習記録(ポートフォリオ等)の提出は平常点として加味します。						

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	講義の目的と進め方(講義内容のアウトラインの理解)		
第2回	企業の存在意義とベンチャー企業の必要性		
第3回	ベンチャー企業とは:わが国のベンチャー企業の実態		
第4回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成①		
第5回	ベンチャー企業の特徴		
第6回	ベンチャー企業の成長・発展過程(1)成長の考え方と経営戦略の論理		
第7回	ベンチャー企業の成長・発展過程(2)マーケティングの重要性		
第8回	ベンチャー企業の成長・発展過程(3)イグジット(出口戦略)とIPO・MBOの動向		
第9回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成②		
第10回	ベンチャー企業の活動実態と問題点(1)スタートアップ期		
第11回	ベンチャー企業の活動実態と問題点(2)成長期、成熟期		
第12回	ベンチャー企業の活動実態と問題点(3)安定期		
第13回	ビデオ演習とディスカッションおよびレポート作成③		
第14回	ベンチャー企業と政策		
第15回	講義のまとめ(講義内容全体の総括)		
第16回	定期試験等		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
専門基礎ライブラリー ベンチャービジネス論	太田一樹ほか	実業出版	978-4-407-31077-1
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
ベンチャー企業	松田修一	日本経済新聞出版社	10-4532113032
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
<p>成績評価方法: 定期試験、平常点(出席率、ディスカッションへの参加、各種レポート提出、資格試験への取り組み、ポートフォリオ提出、教員とのコミュニケーションなど学習に対する積極性)等を総合的に考慮して評価します。</p> <p>評価基準: 広く社会や企業および仕事の意義等について理解し、自分自身のと社会やベンチャー企業等との関わりについて理解している。また各種の資格にも挑むくらい、経営学について関心を持ち、学習に対する積極性をもっていること。</p>			